

小学校 国語科の事例

設定した言語活動を通して育てたい力

- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むことができる。
- 目的に応じて、いろいろな本を選んで読み、その本のよさを説明することができる。

思考力、判断力、表現力の育成

- 学年 第3学年
- 単元名 よこそファンタジーの世界へ（教材名 『つり橋わたれ』 長崎源之助 作）
- 本時の目標
情景の描写（風）に注目しながら読むことで、登場人物（トッコ）の気持ちの変化と物語の展開（現実とファンタジーの交錯）をとらえることができる。
- 学習の流れ（6時間目／全10時間）《前時までの学習内容は、指導のポイントの1を参照》

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 （評価方法）
1 前時の学習内容と本時の学習課題を確認する。	・トッコの気持ちの変化について、前時の学習内容から確認させる。	
トッコの気持ちの変化から、不思議な世界のひみつをさぐり、「読書への扉」にまとめよう。		
2 物語の展開の特徴について考える。	・どこまでが現実でどこからが不思議な世界なのか、叙述を基に考えさせる。	
3 物語の特徴から、ファンタジーのおもしろさについて考える。	・トッコの気持ちが変わったのはなぜか、物語の展開の特徴と関連付けながら考えさせる。 ・例えば、次のようなことについて交流させ、ファンタジーのおもしろさに気付かせる。 ① 不思議な世界での体験が、現実の世界のトッコの気持ちを変え、成長させたこと。 ② 不思議な世界への入口が風であるなど、ファンタジーならではの「しかけ」があること。	
4 本の紹介カード「読書への扉」に、この物語のおもしろさや感想をまとめる。	・ファンタジーならではの「しかけ」、不思議な場面や気に入ったところ、登場人物への手紙等、学習内容が埋め込まれた本の紹介カード「読書への扉」を用意する。	・叙述を基に、不思議な世界での体験によってトッコの気持ちが変わったことをとらえている。 〔読むこと〕 （ノート、本の紹介カード）
物語を簡潔に紹介する（～が～することによって～する物語）		
登場人物への手紙（感想でもよい）		
「扉」を開くと、ファンタジーの魅力があふれ出るしかけです。		
本の紹介カード「読書への扉」の例		
5 本時の学習を振り返る。	・本の紹介カード「読書への扉」で学習内容を振り返らせる。 ※次時は、「読書への扉」を使って紹介し合う。	一番不思議に感じたこと （一番好きな場面でもよい） ファンタジーならではのしかけ 「不思議な世界への入口」

言語活動の充実

指導のポイント

指導事項を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する

- 例えば、本単元では、「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の気持ちの変化について、叙述を基に想像して読むこと」や「目的に応じて、本を選んで読むこと」を指導するために、単元を貫く言語活動として「友達におすすめの本を紹介する」ことを設定しています。このことにより、教材を読むことへの目的意識が高まり、児童の読みの質が向上します。

導入の学習

- あまんきみこの作品等、教師のおすすめのファンタジーの読み聞かせを聞く。
- おすすめのファンタジーを、「読書への扉」を使って友達に紹介するという目的意識をもつ。

展開の学習

- 「つり橋わたれ」の物語の展開のおもしろさや登場人物の気持ちの変化をとらえる。
- 「つり橋わたれ」のおもしろさを紹介する「読書への扉」を作り【本時】、交流する。

発展の学習

- 自分が選んだファンタジーの「読書への扉」を作る。
- 実際の本と「読書への扉」を示しながら、おもしろいところを紹介する。

言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明する」

他のファンタジーなどの並行読書（単元の学習と並行して関連した本を読むこと）



ファンタジーって面白いなあ。ぼくもおすすめの本をみんなに紹介したい！

児童にモデルを示し、ファンタジーを紹介したくてたまらない気持ちにさせましょう。



ファンタジーには、こんな面白さもあるのか。よし、このことを使って紹介しよう！

物語の展開のおもしろさや登場人物の気持ちの変化等を埋め込み、効果的な紹介の方法を工夫するよう指導しましょう。



うまく紹介できたぞ。他にも、もっといろいろなファンタジーを読みたいなあ！

並行読書により、みんなに紹介したくてたまらない本がある状態にさせましょう。

「読むこと」の単元学習を、実生活の読書の充実につなげる

- 「並行読書」（単元の学習と並行して関連した本を読むこと）により、様々なファンタジーを読ませ、ファンタジーの面白さに浸らせましょう。本の紹介では、さし絵を示させたり、「読書への扉」の中で好きな文を引用させたりして、楽しく表現させましょう。また、読書活動年間指導計画や推薦図書リスト等を活用し、学校全体で児童の読書活動の充実に取り組みましょう。

新学習指導要領では

目的に応じて本や文章などを選んで読むことを重視

- 今回の改訂では、実生活で生きてはたらく国語の能力を身に付けるため、読書活動について、目的に応じて本や文章を選んで読むこと等が重視されています。このことを受け、各学年で、実生活における読書との関連性をもたせた言語活動例が示されています。
- 本単元は、第3学年及び第4学年「C 読むこと」の「文学的な文章の解釈に関する指導事項」及び「目的に応じた読書に関する指導事項」を、言語活動例「エ 紹介したい本を取り上げて説明すること。」を通じて指導するものです。「つり橋わたれ」の解釈を通じて読みの観点をもたせ、自分が紹介したい本を選ばせ、説明させます。児童は、学習を通じて読書の楽しさを味わうこととなり、日常の読書生活の充実にもつながります。

